

## 回覧

令和3年(2021年)度 第九回 定例役員会 2021年9月4日(土)

～2021年9月1日(水)作成～ (会場:ボンシャンス)

### < 館長報告 >

館長 土井 承夫(どいよしお)

残暑の中でも流れる雲に秋の訪れが感じられる今日この頃です。皆様には日頃よりお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新公民館の建設は管理・監督者の井手添建築設計事務所様と施工者の馬野建設株式会社様のご尽力により所定の工程表通り作業が進んでおります。9月からはいよいよ基礎部分の上に基本的な建築構造物を組み立てる「建て方」・「上棟」(じょうとう)の作業に入ります。心配していた木材の高騰・納期延伸の世界的な問題も両社の当初からの綿密な段取りにより解決済みで工程への影響は全くありません。両社に対して深く御礼申し上げます。

新公民館完成が11月末ですので9月の初旬に建設推進委員会を開催し主な備品の詳細や自主的な寄附の番付である「寄附者銘板」と玄関に掲げる「表札」制作の手順等を確認致します。

不遜ながら皆様に申し上げます。本プロジェクトは単に福庭住民の皆様だけの案件ではありません。総予算の約4600万円の内、倉吉市を窓口とする公的な助成金が1590万円と全体の約35%を占め、更に低利貸し付け融資金2000万円が加わります。15年間という長期にわたって公民館の現状の会計から支払っていくのですが、この制度も倉吉市が行っているものでありこれを加えると合計3590万円が公的制度と繋がっております。これは全体の何と78%となります。この事案はもはや福庭だけのものではなく倉吉版「官民合同プロジェクト」と呼んでも過言ではないと思います。

### < 公民館新築進捗(しんちょく)状況 >

## ～ 新築工事のスケジュール ～

9月上旬～11月30日(火) 9月3日に最後となる第11回建設推進委員会を開催し各部屋仕様等の最終確認と備品購入や自主的寄附の銘板作成、表札制作の手順等を確認します。この3か月間で建方～内外装を経て新築工事を完了します。数日のずれもあるかも知れませんが納期厳守で作業頂きます。

12月中旬 のお日柄の良い日に完成を祝う竣工式を開催します。今まで支えて下さった方々も来賓としてお迎え致します。

### <福庭自治公民館新築特別寄附金（自主的な寄附）の集計状況>

この自主的な寄附金はプラスアルファ、つまり予備の財源です。然し、これが増えれば増える程低利借入金の返済額と返済期間が減っていくという重要な財源でもあります。その金額に応じて寄附金銘板にお名前を刻(こく)し永く新公民館に掲げます。

住民の皆様からの上記の自主的な寄附金の集計状況をこの後もこの館長報告でお伝えしていきます。受け付け窓口は館長の私、土井承夫です。(26-0770、携帯 080-4261-1979) お電話を下されば、私が戴きに参ります。

この寄附金の受付期限を新公民館が完成する令和3年11月末日と致します。また新公民館完成後も様子を見ながら引き続き受け付け致します。

\*令和3年(2021年)8月31日(火)現在の集計結果(総計)は次の通りです。

- (1) 寄附頂いた世帯数： 152世帯 (全体の約36.6%)
- (2) 寄附金の合計： 489万円
- (3) 個々の寄附金額の概要：最高額：30万円(1名) 30万円(福庭青年団) 25万円(2名：1名は福庭、もう1名は福庭以外の方です) 20万円(1名) 10万円(12名) 5万円(11名)、3万円(23名)、2万円(16名)、1万円(84名・内1名は福庭以外の方です)

(次葉につづく)

## ～ 館長のちょっと一服コーナー ～

・・「日立のヘルメット営業」について・・



<90年代後半、日立金属オーストラリア社長のトニー・ウエズリー氏とオーストラリア・メルボルン郊外の BHP スチールを訪問する。BHP は世界的な鉱業（Mining）の企業で 90 年代には製鉄部門もあった。ウエズリー社長とこの後、シドニー、アデレードなどの都市にある顧客を営業訪問した>



<写真 A>



<写真 B>



<写真 C>

先月の館長報告（8月号）に私のヘルメット姿を掲載したが、30年近い会社勤務の多くをこうしてヘルメットをかぶって顧客の現場を訪問した。主に日立金属若松工場（北九州市）で生産する製鉄圧延用鑄造ロールと日立製作所勝田工場（茨城県ひたちなか市）で生産する製鉄圧延用鍛造ロールを販売して回った。メーカー営業の第一義は現場主義である。現場をないがしろにして商売は成り立たない。幾度となく肝に銘じた。<写真 A>はベトナムの VINA 共英スチール（本社大阪）新工場で日本人の工場長と。

<写真 B>はタイ・バンコクから車で2時間のサイアム・スチールでタイ人の生産技術部長とエイジェント、<写真 C>はインド・デリーでジョイント・ベンチャー立ち上げ模索の話し合い。インド人はみんな素手でカレーを食べるがさすがに私はスプーンをもらった。3日間9食全てインドカレーだったので、最終日には毛穴からカレーが滲んでくるような気がした。

### <ちょっと一服コーナー・追加特別編 (Extra Story) >

昨年終わりにオーストラリア人のマイケル・ムラー氏に、たまたま三朝温泉の「株湯」に浸かっていたら出くわした。西洋人がスッポンポンで公衆浴場に入ってくるのは世界でも事例がない。これがマイケルと私のお付き合いの始まりだった。彼は母国でも秘境にある温泉（ホット・スプリング）によく行ったという。

マイケルは今、鳥取大学の英語の助教授をしていて毎日車で通っている。なんと彼の長女は最近6月に陸上の中国高校選手権女子棒高跳びで優勝した倉吉北高3年の坂口ジャスミン(Jasmine)だった。私の家は倉北の隣でこれもたまたま近くのコンビニでコピーをしていた彼女に出会った。マイケルから話は聞いていたので躊躇（ちゅうちょ）なく彼女に拙（つたな）い英語で話しかけ、マイケル、ジャスミン、ドイ（ヨッチャン）の3人で昼食を共にする約束をした。



お盆の8月16日にそれが実現した。下の写真がランチの <棒高跳び優勝のジャスミン>の様子だ。シテイーホテルの厳格なコロナ対策を遵守（じゅんしゅ）し（6月20日付け日本海新聞）和やかに会は1時間弱で終了した。

久しぶりに全て英語での会話で、前述の会社現役時代を思い出した。ちょうどお盆だったので「先祖の霊が帰る」様な祭事が西洋にもあるかと聴いたら「サンクス・ギビングデイ」（感謝祭）がそれに当たると英語教師のマイケルが答えた。「イースター」（復活祭）は違うの？とジャスミンが聴いたら「意味が違う」と彼は言った。色々勉強になった。全文英文のレポートを私のフェイスブックに載せている。ご参考まで。 以上



< 倉吉シテイーホテルにてランチ >